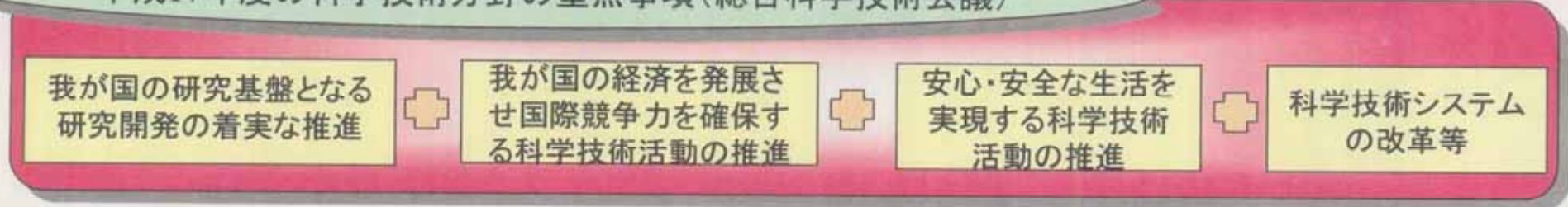


# 平成17年度科学技術関係施策について

厚生労働省

平成17年度の科学技術分野の重点事項(総合科学技術会議)



## 重点事項

**1. 健康安心の推進** (健康寿命の延伸)

(1) 糖尿病等の生活習慣病対策の推進

- ・新たな大型戦略研究事業を導入
- ・画期的予防・診断・治療法の開発
- ・大規模多施設共同研究の推進

(2) 介護予防の推進

- ・痴呆・骨折対策の推進
- ・介護技術の研究開発



**2. 健康安全の確保**

(1) 新興・再興感染症対策

- ・SARS、高病原性インフルエンザ等の感染症の予防・診断・治療の研究推進

(2) 食の安心・安全の確保

- ・ゲノム科学等を活用した予測システムの研究

(3) 危機管理対策

- ・有効で迅速な対応システム

(4) 医療安全の確保

**3. 先端医療の実現**

(1) ゲノム科学・タンパク質科学・ナノテクノロジー等の応用

- ・ファーマコ・ゲノミクス研究の開始
- ・ナノメディシン関連研究推進

(2) 先端医療の実用化、治験環境の整備の推進

- ・治験推進研究の充実



# 糖尿病予防対策の推進

(背景) 平成14年に糖尿病が強く疑われる人は約740万人(1997年比約7%増)であり、糖尿病の可能性を否定できない人を合わせると約1620万人(同約18%増)に上っている。境界型を含む糖尿病は動脈硬化症の主要なリスクファクターであり、合併症の進展に重大な影響をおよぼす。国民の生活の質(QOL)の向上、健康寿命の延伸を図るためには糖尿病予防対策を強化することが喫緊の課題である。

## 課題

- 境界型を含めた糖尿病患者数が急増している
- 糖尿病発症のハイリスク者の早期発見・早期治療ができていない
- 糖尿病の根本的治療法がなく、合併症によりQOLの低下を余儀なくされることが多い

## 具体的な研究課題

### 糖尿病の予防法の研究

- 糖尿病発症のハイリスク者に対し、テーラーメイドな予防法(個々人に最適な生活習慣など)を明らかにする研究
- 糖尿病実態及び発症要因分析に関する研究

### 糖尿病の診断法の研究

- 糖尿病発症のハイリスク者を同定する研究(分子疫学的研究の推進)
- 糖尿病の本態解明に基づく革新的診断法を確立する研究(分子診断法など)
- 各糖尿病合併症のリスクを予測する研究

### 糖尿病及び合併症の治療法の研究

- 糖尿病合併症(腎症、網膜症、神経症など)のハイリスク者に対し最適な生活習慣指導を明らかにする研究
- 糖尿病の本態解明を進め、根本的治療法を開発する(ゲノム研究など)
- 糖尿病合併症の革新的な治療法を開発する研究

研究の一層の推進による革新的な予防法・診断法・治療法の確立

糖尿病患者数の増加を減少に転じる

合併症の予防によるQOLの向上・健康寿命の延伸



# 介護対策を推進する観点から疾病予防・機能低下予防を推進するための研究

医療や介護の必要な高齢者は全体から見るとごくわずか  
健康リスクに応じたサービス提供とそれを支える研究の推進が必要

**要医療・介護群**

**高危険群**

機能低下予防を中心とした保健福祉サービス

**元気群**

疾病予防や自発的な健康増進への支援

老化及び老化抑制機構の解明

痴呆、脳卒中、骨・関節疾患等の画期的診断・治療法の開発



リハビリテーション技術の確立(特に痴呆)

介護支援機器の開発や居住環境に関する研究

効果的な介護予防メニューの開発

健康増進や疾病予防を推進する政策研究

高齢者の社会参加や自立に関する政策研究

健康増進

社会参加

**健康な高齢者**

約1300万人

痴呆  
脳卒中  
約350万人  
骨関節疾患

痛み 低栄養 転倒経験  
うつ傾向 物忘れ 75歳以上 女性  
約750万人  
独居

高齢者の幅広い状態に対応した長寿科学研究の推進